

今月の人

人材バンクより南国市の生涯学習に深く寄与して下さる方を紹介していきます。
今回は、川添晃さんです。



川添 晃さん(高豊町) スポーツ・レクリエーション

昭和32年に教壇に立ってから、現在まで教職一筋。室戸に赴任したさい、その地層のすばらしさに魅せられ、以来地質学のとりこに。国内外を問わず、いろんなところに発掘調査に出かけています。また、昭和61年、ハレー彗星が来たときに天体の世界にも興味を持ちました。どちらも今見えない違いのものとの対話にロマンがあり、目に見えないことがわかったときの驚き、感動が魅力だそうです。

川添さんはこれらの地学の学習を通じて、生徒たちに自然の中で生活してるんだということ。将来の夢は、現在失われつつある貴重なものを、以前から興味のある写真やビデオ、スケッチなどで、資料として残していくことです。

短歌

サンフラワー幹かに入る岸壁に
今朝も穂先に神経ビタリ
大 堀 島 光 明

地陣も浮世も共にしりり来し
貴様も俺も老けてしまえり
西 山 若 健 一 郎

法要の読経は長く続きあつて
高砂子百合の花一つおつる
立 田 島 田 美 津 子

立待の月の宴に花二輪
挽いて舞ぬ艶すがたかな
田 村 北 村 三 代 子

つやみせし柿の木のれどうえくれし
夫すでにして還りまいらじ
植 野 令 厚 文 子

敬老のまねかれ行かむ今日の日に
仕舞いし口紅常よりこゆく
立 田 北 村 幸 江

柳友と語りつくせず秋彼岸
植 野 原 九 幸

種茄子の色赤茶けて残りしか
植 野 原 忠 男

俳句

三人・四人コーヒー館の岩たばこ
比 江 公 文 政 子

男下駄さすり一音高き虫
国 分 和 泉 え い 子

自分史はあじさい色に遠ざかる
国 分 高 村 三 幸 子

虫の音の間につつまれ独りかな
甘 枝 二 宮 弘 代

ダムの水少き根や蝉しぐれ
甘 枝 二 宮 龜 子

かぐらしを残して、発つやク列鳥
陣 山 西 岡 富 子

淡風に吹かれ更科麻のれん
明 見 木 戸 節

孔雀の羽ついに開かず油照り
物 部 山 川 邦 子

牛乳瓶に水子供養の水中花
前 兵 中 村 榮 生

ひと夏を恋に生きぬきせみ時雨
後 免 町 田 戸 芳 恵

悦びの美樹末し葉に蝶
緑ヶ丘 加 美 寿 龜

人前は脚気養生ビニールを張る
田 村 川 口 岩 春

川柳

市の統計

面積	125.11k㎡
人口	48,262人 (+35)
男	23,117人 (+19)
女	25,145人 (+16)
世帯数	17,942軒 (+12)
()内は前月比	
〔平成6年3月30日現在〕	

火災・救急

〔火災〕		〔救急〕	
発生件数	7件	出動回数	113回
建 物	4件	急 病	69回
山 林	2件	交通事故	23回
その他	1件	一般事故	10回
被害額	1,817万円	その他	11回
		〔平成6年9月分〕	

まほろほ

今年初秋のある朝のこと。厳しい暑さも少し和らいだ曇り日に、我が家に寺院のものと思える鐘の音が聞えてきた。東方に開けた里山の山腹にある我が身屋に珍しくも届いた鐘の音は、まさしく山峽を巡ってきた国分寺の鐘の音である。時計を見る

と午前六時であった。
鐘の音は平等院か梅寺かよを宇治山に日のかけるころ、金子薫園の有名なこの歌は、次第に夕暮れの近づく古都の風情を描写して余りあるが、山里の朝のしじまにあるかなしの南風に乗って聞こえてくる鐘の音は、まほろほの里の往時をしのんで心和むものがある。伝承によると昔ここに生んだ先人は、神秘的な鐘の音に時を知り、音色の変化で気象の移り変わりを悟りまた吉凶を占ったという。たまたま訪れる国分寺の七堂がらんに目を見張り、みやびやかなまほろほの里に驚いたことである。星移り時は流れて四百年、いま南国市はホープ計画を策定、そのテーマの一つとしてまほろほの里づくり(歴史の地の集落整備)を決めたと聞く。南国市により良いまほろほの里が生まれ、梵鐘の響きを聞くことは楽しいことである。(田)

広報は、地区連絡員さんたちのご協力で皆さんの家庭にお届けしています。